

機関科関係

一、機関室通風管制用通信器別式並ニ裝備標準ヲ大略左記ノ如ク定メ速ニ巡洋艦以上ノ艦艇ニ裝備スルヲ要ス

通信器現用非常通報器同條ノモノニテ可ナリ裝備要領ハ各艦煙鑑測所(運轉指揮所)ヲ發信所トシテ運轉指揮所機械罐指揮所並各分掌指揮所ニ受信器ヲ設置ス尙運轉指揮所發信所間ニ直通電話ヲ導設ス

(理由)比島沖海戦前後三日間ニ亘リ敵飛行機ハ未嘗極メ多ク対空戦斗ノ回数ハ三〇回以上ニ及ビリ叔対空戦斗時惹起シ易キ機関室ハ火災瓦斯侵入ニ依リ第ニ次被害ノ所ニ成リ戰訓上絶対必要ナルニ依リ其都度嚴密ナル通風管制ヲ實施セリ然ルニ運轉指揮官以下各部指揮官ノ狀況判断資料之ヲ爲管制目的ノ完全達成ノ爲ニ勢 其開始過早ニ陥リ解除ノ及対ニ遲キ失爲シ加之首題通信裝置無キ現狀ニテハ

戦下通風管制ノ通信増加及ニ通信所用時意外ニ多ク齊ナル管制ヲ期シ難ク管制ハ必要以上ノ長時間ニ直レリ從テ室温及湿度ハ白升騰シ機周員ノ体力消耗ハ目見エテ増大シ時トシテハ多少ノ危険ヲ冒シ之ヲ弛ムルノ已ムヲ得サル場合モ生ゼリサレハ前述ノ通信器ヲ速ニ設置シ管制員トシテ信頼ニ得ル下士官ヲ附シ機宜ノ管制解除ヲ本通信器依リ齊ニ實施シ機周員ノ勞苦軽減ヲ画スベキトシテ大ニ際シ機周室火災等ヲ侵入セシ運轉汽釀ニ又障ヲ生ゼシムルケ如キトナラシムルヲ要ス

二 機周員待機所ノ根本的改造並ニ新設ヲ要ス

(理由) 戦艦ヲ主体トスル旧艦隊編制ヨリ空母主体或ハ巡洋艦基準ノ艦隊編制ニ移行シ戦時ニ實施サル現狀ニ於テ「ア」号作戰又捷号作戰ノ實績ヲ見ルニ低速ナル戦艦ハ最大戦速即時或ハ二〇分間待機ノ極長期戦時航海ヲ必需ニサルベク「ス」從テ機周員ノ勞苦就中罐部員ノ勞苦ハ言語絶スルモノアリ捷号作戰ニ於テ罐部九名機械部一名ノ熱射病

- (ハ) 生存者、退避ハ應急用細梯子ヲ利用セシムルコト。
- 但シ各甲板ニ名位ヅ、安貝施セシム
- (ニ) 生存者標識トシテ白木綿片ヲ片腕ニ巻カシムルコト
- (ホ) 各甲板、火災盤裂、現示ノタメ、發煙筒ヲ連續使用ス

判令 委員用トシテ一般電話擴声器ハ故障セシムズ

四 訓練主要項目

- (イ) 操艦指揮所、轉換
- (ロ) 射撃指揮所、轉換
- (ハ) 多数欠員ニ依リ戦斗力、持續
- (ニ) 一方火災ニ對スル處置法
- (ホ) 通信、確保及損傷箇所、復旧
- (ヘ) 上方被害ニ依リ退避法
- (ト) 第一應急指揮所、轉換

前橋樓大型爆彈被害 (想定第六)
一敵機人型爆彈前橋二命中 羅針艦橋甲板附近ニテ

炸裂ハ
二被害状況

(一) 羅針艦橋附近ヨリ上方構造物各部大破 左舷ニ崩、傾斜 大火災ヲ生ジ各甲板ニテ着ニ名ジ、以外ハ殆ド重傷

又戦死大勢益々増人シツアリ

(二) 損甲板司令塔附近、第二電話室 第一應急指揮所ハ上方火災、爲ト破壊物無下、タメ戦闘配置ニ留

コト困難

(三) 司令塔入口附近猛烈裂ル火勢、タメ入室困難
(四) 甲板取付、各階段ハ破壊セラレ使用不可能

三指道守

(一) 積磚火災ハ防備具甲板ヨリ上方ニ昇リ消火可能、如ノ

指道守

(二) 厚布、蛇管ハ此艇五本(奇十本)以上導カシムルコト

缺、如

患者ヲ出セル实例ヨリ戰鬥即應ニ機内員ノ体力保持ノ見地リ是非適
 当ナル機内員待機所ヲ必要トス差当リ本艦ノ如キハ機械室共ニ防禦甲板
 下ノ空所ヲ利用設置シトシ既設防禦指揮所(七鐘天井)中部注排水
 管制所(三機室天井)戰時治療所(機室天井)等ノ如ク防熱並ニ通風ヲ考慮
 シ就中通風ニ於テ今前ニ者ニ於ケルト同様冷房装置ヲ設ケ常ニ冷涼
 タル空氣ヲ供給充分休養攝取可能ノ待機所タラシムル如ク至急改造
 並ニ新設ヲ要ス准一官以上待機所モ亦右思想ノ下ニ設置ノ要切ナル從
 來ノ戰訓ノ同様ナリ

三 旋轉補機非常遮断装置 耐震性能向上対策ヲ講ズルヲ要ス
 (理由)本件ハ艦戰訓ニモ散見スル所ナルモ今回本艦ニ於テ近距離彈
 (稍附近)ノ激動ニ依リ主要補助機械(注油ポンプ及復水ポンプ)ニ本
 装置作動自停セルモノハ台モ達セリ爾後調査セルニ救正備上不具令点
 無シ機構上耐震性能尚ト云アルモノト認ム

四、室内敷板ノ固定ヲ要ス

(理由) 艦後部至近彈ヲ受ケン時舷外側機械室ニ於テ敷板跳躍シ移動セルモノリ船体ノ傾斜等ヲ考慮シ移動セザル如ク螺子取付トナスヲ要ス

(本件十八年冒修理ノタメ呉帰港時戦訓ニ依リ呉廠ニ取付方請求セシ敷板厚ク移動コトナクハントノ意見ト其ノ數大ナル依リ中止セラレタルモノリ)

五、操縦室窓硝子用防曇劑ヲ需品トシテ設定ヲ要ス

(理由) 対空戦時通風ヲ停止セル場合窓硝子曇リ且傳聲管ハ既ニ遮断セルニ依リ室内ノ外ノ連絡困難トナル付防曇剤ノ操縦室窓ニ試用セルニ好結果ナレバ將來需品トシテ配給ヲ可ト認ム

六、艦ノ前部又ハ左右ノ舷側近ク應急通風用給氣口ヲ新設スルヲ要ス

(理由) 本艦ノ如ク給氣口ヲ全部中央部ニ集中シテ艦橋附近ニ火災ヲ生シタル時熱氣侵入ニ依リ多數ノ罐汽釀困難トナル憂少ク之ニ應急用トシテ給氣口ヲ中央部ヨリ充分ニ引離シ別個ニ裝備ノ必要ヲ認ム

七、罐室自然給氣路の一部ヲ反対艦昇導子ヲ要ス

(理由) 給氣口附近火災ノ際ハ自然給氣通風弁閉鎖ニ依リ室内温度上昇シ十分以上汽釀進請困難ナレバカナル場合反対艦罐通風口ヨリ自然給氣ヲ導子得ル如ク給氣路ヲ交通セシムル可ナルモノト認ム

八、罐部指揮所給氣通風機ノ力量ヲ増大スルヲ要ス

(理由) 現裝備ノキハ八馬力ニシテ室内温度ハ常ニ四十度ヲ下ラス然レモ狭キ室内ノ戦斗配置員四名乃至五名ナレバ長時間指揮ヲ容易ナラシメシガ爲今少シク通風機ノ力量増大ノ要ナルモノト認ム

九、重油タンク空氣抜管ハ各タンク別ニ上甲板迄垂直ニ導設シ浸水被害ヲ極限セシムルヲ要ス

(理由) 現在各タンク空氣抜管ハ下甲板又ハ中甲板ニ於テ大部分同一区劃ニ集合シアリテ今次試訓ノ如ク此ノ集合区劃損傷ニ依リ各空氣抜管破壊シ被害箇所ヨリ遠隔ルルシク迄浸水セシタリ大和型

戦艦ニシテ航行中ノ吃水線ノ上昇及被害時ノ沈下傾斜等考慮
シ是非上ノ板並垂直延長ヲ要ス

一〇、各重油移動ポンプ室下部タンクハ一個乃至二個ノ混水排除用タンク
ヲ定メ各タンク最底部ヨリ排除シ得ル手動ポンプヲ装備スルヲ要ス

(理由) 防禦上劃外ニ多數ノ重油タンクヲ装備シテリテ舷側タンクハ戦
斗毎ニ被害ヲ受ケル事ハ戦訓ニ依リ明カナル斯ル場合各タンク毎混
水排除ハ不能ニシテ混水重油ヲ其儘流失セシムル時ハ航續巨離ヲ著
シク短縮シ爾後作戦受ス影響極メテ大ナリ依テ該タンクニ相落
シ混水排除試験試験上使用するル如クセバ汽釀ニ対シ不ヤモナク極メテ
有効利用シ得ルモノト思カス

一一、二重底重油タンクニ漲水装置ヲ設ケ重油移動ポンプハ排水ニモ使用
シ得ル如キポンプニ改表スルヲ要ス

(理由) 大和型戦艦ニ於テ予ル如ク変化修繕等不足ナル事ハ使用実績報

此等通リニシテ之ガ補助装置トシテ空虚トナリタル重油タンクヲ利用シ得ル如
 クシ尙現在ノ重油移動ポンプニ海水ニ使用スルトシ軸受可燒損スルヲ以テ軸
 受注油装置ヲ改造シ任意注排水可能ナル如クセル注排水タンク被害時ノ
 補助装置トシテ有効ナルモノト認テラス

○醫務科関係

一、傷者收容救急法、避難法、救急法三階の事項

(1) 敵機空襲空襲文戦毎多敷、戦死傷者一時治療所を収到スルヲ以テ各治療所天比較的広面積ノ傷者溜場ヲ設置シ傷者ノ整理ニ當ルヲ要ス

(2) 戦時時傷者処置中收容所内ニ於テモ傷者ノ整理ニ少敷收容班ニ名ヲ至三名ニ可軍属又ハ傭人ヨリ選定スルヲ可ナシシヲ編成シ置ケバ極メテ好都合ナルヲ痛感セリ出夫得ル收容後ニ於ケル傷者ノ世話係モ選定シ置カハ都合ナリ

(3) 傷者收容後ニ於ケル患者食ニ関シ予メ至計科ト連絡ヲナシ置キ速ニ供給シ得ル如クナシ置クヲ要シ一定量患者食ヲ予メ医務科ニ保管シ置クヲ得至便ナリ

(4) 收容所ニ於ケル通風換氣ハ極メテ重要ナル問題ニシテ予メ充分研究置キ通風装置破損時ニ於ケル対策ヲ決定シ置クヲ必要アリ

<p>動</p>	<p>動</p>	<p>通</p>
<p>六ノ一三</p>	<p>六ノ一二</p>	<p>六ノ一一</p>
<p>司令塔 在室員</p>	<p>航海長</p>	<p>前(前)部 電信室 先任者</p>
<p>司令塔入口鉄扉閉 鎖、儘作動セズ</p>	<p>前橋標爆彈命中 羅針艦橋以下火災 操艦不能</p>	<p>前橋標爆彈命中 羅針艦橋以下炸裂 第二無線室附近 中火入、第一無線 室員輕傷ノ外所在 通信科員全部戦死 前橋ヨリ展張電空 中線全部使用 不能</p>
<p>指揮所轉換トモ ナラ操艦員ノ協 同依リ應急處置</p>	<p>艦橋以下以外 於ケル指揮操 艦所ノ轉換</p>	<p>僚艦ト連絡 持續法 艦内通信連 絡法</p>

<p style="text-align: center;">(砲)</p>	<p>機作</p>
<p style="text-align: center;">六、一。</p>	<p>別業 封密 番書 號開</p>
	<p>機封</p>
<p>砲術長 副砲術長 測的長 防空指揮官 三番高角砲 砲員長 前部管制盤</p>	<p>機封 被交付者</p>
<p>一二番高角砲員(一) (二)戰死其他輕傷 砲員使用可能 供給所危險 羅針盤橋ヨリ工部 兵器全部破壞 使用不能 依令所依令員外 積積關係砲術科 員總員戰死</p>	<p>想定 命令 制令等 羅針盤橋工部大 火天五六番機銃 破壞銃員全部戦 死</p>
<p>断ッ 源管制盤ヨリ 塔旋用十米 測巨儀旋回 用電動機電 主砲指揮所 盤ヲ断ッ 電源ヲ管制 一二群機銃</p>	<p>指道并要領</p>

(5) 重傷者ノ運搬ノ爲メニ於テ昇降口活孔階梯等アリ且廉狀吊架ヲ最道トス

(6) 戦死者特ニ即死者ニ于テ治療所ニ搬入セズ且ニ在体收容所ニ搬入セルモノアリナリ爾後医務書類処理上不都合アリ即死者ト雖モ且治療所ニ運搬軍医科士官ノ檢視後処置スルヲ要ス

(7) 一般兵員ノ装創法ニ比較シ良好ニ行ハレタリ特ニ于テ繃帯包賞用セラル

(8) 止血法今回ハ何トモ充填圧迫法ニ依リ完全ニ止血自的達成サレ止血棒ヲ使用セルモノハ認めナリキ

(9) 四列衣或ハ三列衣等ノ中ニ広キ巻軸帯ハ装創上極メテ有効ナリ今後ハ战斗中中ニ広キ繃帯ヲ準備ヲ必要ト認め熱傷処置箇ニハ多頭帯ハ便利ナリ尚三角

巾ノ使用法ヲ衛生兵ニ熟達セシ置カハ肩肘部臀部等ノ装創ハ極メテ有効ナルコトヲ痛感セリ

二 治療並ニ治療高ニ関スル事項

(1) 今次病室関係被害艦は治療室分散格別と認め有る意義ナル
ノミナズ從價、備最善治療所ニ於テ搬出使用上好都合ナリキ

(2) 創面ノ防護防止ニ外科用スハクアミシ劑ハ大量準備ヲ必要ト認ム

(3) 簡單ナル一次治療具ハ付キテハリカバテテカシクハ瀝布吹霧式ニ裝置セ

ルニ劑重曹洗合粉末、滅菌綿帶、カシセ、鉸、鉗子、鑷子等ヨリ

箱ニ纏テ持テ運ビ度ニシタルモノヲ三三子メ用意シ置カハ治療上極メテ便利

ナリ注射熱湯処置等ハ別ニ用意シ置直ノ分業化ハ或ル程度必要ナリト認ム

衛生兵ヨリメ令擔訓練シ置キ多ク毀傷者發生ハ際ハ軍医科士官ハ大

局ニ眼ヲ注キ傷者処置ニ就カシメ、極メテ緊要ナルヲ痛感セリ

三、艦内治療室設置ニ関シテ

從來艦船ノ蘇生ニ當リテハ軍医長主管特ニ治療室病室等ハ他科ノ

需要ヲ滿シタル後其ノ余域ヨリニ充ツルノ憾ナキニモアラス之ガ爲任々

治療室ノ設置位置廣ク其ノ他ニ當リテモ射ヲ加ヘテレタル例ナシトセズ

本艦に於て七合治療室共戦時被害を公算大ナルニシテ傷者ノ運搬上極メ
テ不便ナルヲ痛感ス

今後艦船一時戦艦制ニシテ裝ニ當リテ左記要点ヲ考慮シ平戦時
ヲ問ハテ常ニ圖併使用シ得ル如ク設置要アルモノト認ム

(ハ)被害ノ公算小ナルコト

今次戦斗ニ於テ前部戦時治療室(平時治療室)並ニ各病室被害固ク
全ク使用不能ニ陥レリ(但シ戦前ニテ慮リ平素使用シヤリタル治療室及
病室六總ニ閉鎖シ之ニ代フルヲ予メ検討シタル区劃ニ假治療所並ニ收容所ヲ
設ケ治療室一部ヲ移シ置キタルヲ以テ被害ハ最大限度ニ縮ム
ルコトヲ得タリ特ニ三三依ル人的被害ハ皆無ナリ也又後部戦時治療室モ被
害ノ好発箇所ヲ想ハシテ設置ナルヲ以テ中甲板亦十四兵員室ニ移轉シ
今次ハ使用セザル状態ナリ
即チ本艦型ニ於テ中甲板ニ直接外舷ニ設ケザル区劃ニ設置スル

ヲ要又現在中部假治療所トシテ使用中^中甲板ハ兵員室^中如キハ特ニ
 時並ニ戰時^中所用ノ治療室トシテハ最適ノ箇所ト認ム
 (2) 傷者ノ搬入ニ便ナルコト

(3) 重要戦計配置可及的ニ接近セルコト

本艦中部戰時治療室ハ装甲内ニテリ被害^中恐レテキモ昇降急キニ狭
 隘ナル階段二段ニ依リ上下セラル可ニナル以テ患者ノ搬出入ニ極ニ
 不便ヲ感セリ又前後部戰時治療室兩者共偏域ニテ重要戦計
 配置ヨリ隔絶シ傷者收容上極ニ不便ナリ

(4) 多数ノ傷者ヲ收容シ得ル隣接^中区劃^中ノ收容所ヲ有セルコト
 (5) 通路ニ當ラザルコト

以上ノ諸点ニ着目位置ヲ選定シ室内^中機装^中モ各室共或程度ノ手術
 調有^中等^中可能^中如ク設置スルノ要ナルモノト認ム

(大及)

○主計科關係

一主計科指揮所、設置及艦橋ト通信系統、確立

今次作戰ニ於テハ厨業事務室ヲ主計科指揮所トシテ
使用セルモ他科、指揮所、如ク通信施設ハ完備シ居ラズ軍
ニ一般交換電話ノミナリキ然レバ高聲令達器ヲ有スル烹炊
所内ニ常時傳令ヲ配シ置キタリ

而シテ從來、觀念タル厨業事務室ヲ廢シ今少シ面積モ
擴大シタル主計科指揮所ヲ設置シ一般交換ノミナラズ艦橋
ト直通電話及高聲令達器等、通信施設ヲ設置スル
ヲ要アリ

對空戦闘ノ連續時ニ於テ主計科指揮所トシテ通信連
絡ノ必要ナル事項、大部ヲ列舉セバ左ノ如シ
不烹炊作業關係連絡（敵情判断作業、始終及中

止蒸氣真水關係

(四)給食關係(普通配食戰配食應急糧食給食特關係)
(五)主計料關係(被害調木魚人員(特作戰記錄班員及兼務應急員)並倉庫被害等)

(六)兼務配置員、派出連絡

人力操舵員、配員

彈藥員、派出

應急員、派出

二 戰鬥給食關係

(一)戰鬥給食ハ從來、觀念ニ依ラバ決戰ハ短時間ニ終了スルヲ以テ握飯ニ配スルニ才氣ナキ副食物ヲ以テスル弊當食ヲ給スルヲ立前、如ク思考セラレ居リタルモ近時戰鬥特ニ今次作戰ニ於テハ海戰期短時間ナルモ決戰場到達及離脱

六相當長期、對空戰闘ノ連續ニテハ、開乾ハシ、應急食
 ト戰闘給食、辨當食ニテハ、來員ハ極度ニ疲勞ヲ覺スルニ
 從テ汗物乃至ハ汗氣ヲ相當含有スル副食物ヲ給スルト肝要
 ナリ而シテ本艦ニ於テハ二十四日及二十五日ノ兩日十數回ニ亘リ對空
 戰闘依リ來員、發汗攝水依リ疲勞ノ回復及士氣振作ヲ
 考慮ニテ五日ノ夜食ハ握飯(附天庵梅干)ノ外味噌汁ヲ
 作り希望配置ニハ配食セルニ配食器ヲ始メ「ヤンキー」一
 牛瓶等ヲ携行シ來リ平時朝食ノ味噌汁ノ教倍ヲ
 消化セリ(塩分補給上効果大ナリ)

(四)戰闘應急食ニ就テ
 烹炊作業、出來ハル場合、準備トシテ乾麴麩等ノ應急
 食ヲ戰闘配置毎ニ配食スル置クコトノ肝要ナルハ言フ待タ
 カルモ應急食ノ必要ナル烹炊作業、出來ハル場合、ミナラス

今次作戰ニ鑑ミルニ戦闘配食ニ各配置ニ握飯ヲ運搬セルニ突
 如敵機未襲シ對空戦闘ナリ至近彈等ニ依リ配食器諸共何
 所ヲ飛散ニ攝食セズニ飛散スルトモ以テ前進基地出發
 前戦闘應急食ヲ準備スルヲ要ス向ニ準備場所ハ各人
 戦闘配置毎ニ二三食分並ニ各分隊又ハ居住区毎ニ二三食
 分ヲ配給シ置テ便トス
 尚品種トシテハ乾パン携行食ノ外機上應給食トシ如キモ
 毛給ニ得ル如クスルヲ要ス
 い烹炊作業ノ継続
 戦闘時特ニ水上艦艇ニ不利ナル對空戦闘ニ於テハ自艦被虐
 ハ極メ過大視感ヲ連日對空戦闘ニ依リ電燈ハ消ヘ各所
 ニ破穴ヲ生スルトモ烹炊作業モ行ハズ飯ヲ給セザルトモ兵員ハ
 一般ニ最早ヤ飯ヲ炊テテラテカト士氣ヲ沮喪ス從テ晝

間ノ戦闘ニ依リ烹炊作業出来カルトキハ万難ヲ排シテ夜間烹
 炊作業ヲ繼續スルヲ要スマツ飯ガ食ヘルトイフ安心感コノ激
 烈ナル戦闘ヲ終リ明日ノ激戦ヲ想像スル際唯一ノ慰安ナリ
 二) 小型瓶詰又ハ缶詰果物ノ供給

近次作戦ニ於テモ決戰場到惹及離脱ニ相當長期ノ對空
 戦闘ヲ予想セラルベシカハ際ニ於テ各戦闘配置ニテ夜食
 ノ際等ニ從來酒保ニ於テ配給ニツツヤリタルみかん缶詰
 ノ如キ各人乃至ハ二人ニ一個程度ノ小型瓶詰乃至ハ缶詰
 果物ノ供給ヲ要ス

ホ) 特種配置ト特殊糧食

海上戦闘ハ僅カニ数時間ニ終了スル如キ從來ノ觀念ヲ打破セル
 今次作戦ニ於テ十一月二十二日BV出撃ヨリBV帰投迄ノ全期間
 潜水艦ニ對スル警戒ヲ要ス二十五日ノ菲島沖海戦當日ノ

ニテラス之が前後ニテ四ニテ六日ヨリ合ハ連続三日間ノ對空
 戰闘ハ來員ヲシテ徹頭徹尾疲勞ヲセシメテリ茲ニ於テ乎
 急速疲勞回復ノ爲特殊糧食ヲ給スルヲ要ス

(1) 航海見張關係員

次戰場ニ突入乃至離脱ニ夫々數日ヲ要シ此間對空對敵
 戰闘ノ連續ニシテ航空糧食ヲ強カヒラシメ食等ノ如キ
 疲勞ノ防止輕減乃至恢復促進ノ特殊糧食ヲ給シ更ニ
 激戰後ノ夜間當直員ハ居眠防止食(防睡食)ヲ當直
 員戰闘配置附近ニ急速睡眠ニ依リ疲勞回復ノ爲ニ
 ハ現航空糧食ヲ特殊疲勞回復飲料トシラム入酒精
 飲料等ヲ給スルヲ要ス

(2) 對空射擊關係員

參烈ナル對空戰闘ノ連續ニ依リハ身共ニ疲勞スルトキ強カ

ビラミシ食」或「海軍ビラミシ食」等ヲ給スルトキハ事實上ノ
 効果外弱ルルモノ甚クモカムノ理準ハテ斯ル特殊糧食包裝
 ノ小袋面ニ記載スルハ効能甚クハ精神的ノ天志造カヲ興ルモノニ
 テ是非共斯ル特殊給與ヲ行ヒ現存セシ戦闘員ノ士氣ヲ鼓舞
 スルコト肝要ナリ

(一) 飲料水容器ノ保存

酒空瓶衛生酒空器乾パン空缶及醬油空瓶(百一需供給)
 等ハ戦闘配置ニ於テハ飲料水ノ供給空器トシテ極メテ重
 要ナル物品ナリ熱帯地ニ於ケル對空戦闘ノ連續ハ水ノ欲
 求全ク言語ニ絶スルモノアリ
 今次作戰ニ於テハ敵機ノ退散ト同時ニ意炊所ノ全能力ヲ
 發揮(主計兵六名ヲ水掛リトシ各意炊釜ヲ全幅活用シ
 テ飲料水ノ供給ヲ行ヒタルモ厨ニ合ハルル狀況ナリキ

尚茶ヲシテ(戦闘時ハ眞水ヲハル)如キハ大艦ニアリテハ烹炊所
 前ノミナラス前後部等ニ設置シ平時ハ烹炊所附近ノ混雜
 ラ防止シ戦闘時ニ於テハ飲料水供給ヲ円滑化スルヲ所要ナリ
 (註)別紙各分隊戰鬥應急飲料水常備一覽表參照
 糧食ノ分散格納
 糧食關係ノ分散格納必要ナルハ贅言ヲ要セザルモ本艦ノ如
 キハ倉庫名稱通ニ糧食ヲ格納セバ決シテ倉庫數
 多キモ分散格納ノ主旨ニ副ハザル莫クシテ艦船機
 装ニ際シテハ本件ヲ考慮スルヲ要ス尚今回ハ特別ノ被害
 ナカリシモ主計科倉庫ヲ中甲板下甲板最下甲板ト
 縱深的ニ重テテ配スルハ被害局限見地ヨリ一考ヲ要ス
 而シテカハル縱深的配列倉庫取入庫出口ハ一個所ナル爲
 戦闘時以外ノ糧食品ノ庫入庫出ニ極メテ不便ナリ

三 補給關係

(註)各倉庫ノ名稱ハ必ず正確ニテラズ殊ニ内地ニ於テ職
 装ニ熱帯地ニ行動スル場合ハ倉庫ノ名稱ヲ以テ自信
 スルハ不可ナリ本艦ニ於テ最モ甚カレキハ野菜庫ナリ
 即チ第一第二第三野菜庫共ニ隣接區劃所在位
 置等ヨリ判断スルニ何レモ野菜格納保管区ハ不
 適ニテ極言セバ野菜腐敗庫トモ言ヒ得ル

戦闘後第一周生糧品補給等、際ハ併セテ艦内生糧必
 需物質ノ補給ヲ考慮スルヲ要ス
 例ハ給糧艦等艦隊泊地進出、際ハ塵紙禪石類
 等ヲ合ナクニ生糧品ト共ニ搭載進出スルヲ要ス
 今次作戰、如ク酒保物品殆ト枯竭、狀況ニテ作戰
 從事ニ残リ少キ酒保物品モ被彈浸水等ニ依リ亡失セト

キ熱帯地ナル爲被服物品ハ大ナル支障ナキモ塵紙ノ不
 足ハ日々ノ生活ニ不便ヲ感スルシ又酒保綿製品庫及被
 服庫ノ浸水ニ依リ禪等皆無ニテ應多ク員ノ如キハ待機
 自地歸投后ニ連日重油浸入中ニ入リテ應多ク修理ニ
 事ニツキアルモ取換フルヤ禪モ無キ狀況ナリキ(兵員ノ
 所持品モ水線下格納ニ依リ浸水ス)

四需品關係

配食器及食器等ハ相當予備品ヲ保有スルヲ要ス又
 戰鬪配食ニテ配食器及食器類ハ各自戰鬪配置附
 近ニ保存スルモ被彈爆彈爆風等ニ依リ相當數飛散シ
 矢セリ特ニ昨今ノ如ク竹ノ皮乃至之ガ代用品ノ供給不
 充分ナルトキハ幾多ノ不便ヲ痛感セリ

(四) 作戦地ニ於テハ被服糧食ト同様ニ艦船整備用品ヲ取扱
 主任間ニ於テ供給受込(授受)ニ得ル如ク法規ヲ改正ヲ要ス
 戦闘中ニ旗艦変更ハ屢行ハルモ斯カル司令部ハ船中ニ物ニ
 テ結局新旗艦取扱主任ヨリ司令部取扱主任ニ譲渡ス
 ルハカラサルナリ

尚又損傷艦船ガ艦隊ト分離ニテ修理等ヲ爲シ一時前進根
 拠地又ハ内地港灣等ニ歸投シ際ハ去來得ル限リ作戦地残
 ルキ艦船ニ譲渡ニ得ルキ物品ヲ譲渡シ置クコトガ補給
 意ヲ如クナラサル艦隊ノ其ノ後行動ニ便利ナルコトヲ多クシ故
 ニ前記ノ二例ニ依ルモ艦船整備用品ヲ取扱主任間ニ於テ授受
 ニ得ルヤウ法規ヲ改正ヲ要ス

(註)

(1) 需品受込請求書(整備品取扱規則様式六七六)ノ規

6

用紙) 記事欄今尚定数前受額ヲ記載シツ

アルハ無意味ナリ

(2) 糧食 授受ハ可能ナルモ米ノ麻袋ヲ授受ハ不可能ナ
ルカ如キハ奇怪ナリ 麻袋モ連ニ授受シ得ル如ク改正
ヲ要アリ(通常物品)

五 被服関係

被服物品モ分散格納ヲ要アリ 被服庫ニ浸水スモ他被
服庫ニテ事足リ得ル様各被服庫ニ各品種ノ作戰地附
近ノ氣候ニ依リ差當リ必要ナルモノニ限ルヲ保有スルヲ要ス
今次作戰ニ於テハ被服庫ノ浸水ニ依リ遭難者ヲ救助
スルモ給スル被服ニ不便ヲ感シタリ

(註) 近時貸具興被服ノ増加ニ伴ヒ往年ノ交付品時
代ト異ナリ 當然被服庫ハ擴大ヲ要ス本艦ハ機銃

1974

ノ増備ニ依リ第一被服庫ヲ機銃動力車ニ転用サレ
タルモ目下南方行動中ニテモ布等殆ド搭載シテ
ハルモ既ニ被服庫不足ヲ痛感シソツアリ

各分隊戦闘應急飲料水常備状況

分隊別	飲料水			油			飲料			茶			合計容量	記事		
	(40L)	(40L)	(40L)	(7L)	(26L)	(18L)	(9L)	(20L)	(9L)	(4L)	(1L)	(10L)			(35L)	(12L)
1分隊		7				1						35	2	1	231.6L	
2 "								8				27	51		228.8"	
3 "		8				15					3	55	4		504.2"	
4 "		8									8	25	12		238.6"	
5 "				2							14	48	53		343.4"	
6 "						2					8	50	60		226.0"	
7 "											20	70	50		240.0"	
8 "											10	50	130		324.0"	
9 "		3										40	20		136.0"	
10 "					2							20	10		90.0"	
11 "												12	59		118.2"	

1975

12 "			2							10	25	16			773.8"
13 "										8	65	18		3	1654"
14 "						25				13	58	60			767.0"
15 "		6							11	2	2	5			139.0"
16 "		11			8	6	9				29	12			667.6"
17 "		1		1						6	20	12			137.6"
18 "						2						2			39.6"
19 "	6	3				14		4	9		5				718.0"
20 "						56					45				1053.0"
21 "	2										30				110.0" 含患者用
計	8	47	2	3	10	121	9	12	20	102	711	576	1	3	6721.8

1976

砲	副	砲	主	戦闘消費数	種別	数量
一〇 二 五	一〇 二 五 四	一〇 二 五 六	一〇 二 五 六	一〇 二 四 一	對空彈 對空彈 九四式榴彈砲 三八式燒霰彈	三 一 二 四
水上彈	對空彈	水上彈	九四式榴彈砲 一式徹甲彈			四 〇 四 四
消耗品	對空彈	對空彈	十五榴五砲庚式通常彈			一 〇 二 二
十五榴五砲九一式徹甲彈						八 四 二 四

兵器彈藥燃料消耗詞彙表
 兵器彈藥消耗数

銃					機					砲角高							
至	目	"	"	一	"	"	"	一	"	"	"	一	"	"	一	"	"
一	一	"	"	一	"	"	"	一	"	"	"	一	"	"	一	"	"
一	一	"	"	一	"	"	"	一	"	"	"	一	"	"	一	"	"
二	二	"	"	二	"	"	"	二	"	"	"	二	"	"	二	"	"
六	四	六	五	四	六	五	四	六	五	六	五	六	五	六	四		
"	"	"	"	"	"	"	"	對	"	"	"	"	"	"	對	"	"
								空							空		
								彈							彈		
十三	"	"	"	九	"	"	"	六	"	"	"	十	"	"	七	"	"
機				六				式				七			高		
銃				式				五				高			角		
彈				機				機				砲			砲		
藥				銃				銃				着			色		
包				通				常				彈			藥		
				常				彈				藥			包		
				藥				包									
四	三	二	一	八	二	一	二	一	二	六	九	七	八	四			
八	一	〇	八	五	七	八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇				
四	四	〇	〇	〇	九	〇	〇	〇	〇	一	二	〇	四				
七	五	〇	〇	〇	二	〇	〇	〇	〇	一	〇	〇	〇				

(ロ) 燃料消費調木表

(自十月十七日リカ出撃
至十月二十日迄入港)

(イ) 使用速力

速力(節)	一二	一四	一六	一八	二〇	二四	二六	最大一杯
時間(時分)	四三〇	五五〇	二四〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇

(ニ) 待機區分

待機種別	時間(時分)	待機種別	時間(時分)
十六節即時待機	三九一〇四	十六節即時待機	二一〇九
十六節十五分間待機	一〇一五三	十六節三分間待機	八一〇九
十六節十分間待機	四四一五〇	十六節即時待機	六一〇二
十六節三分間待機	二六一二九	十六節三分間待機	四〇一〇四
十八節即時待機	七八一五八	十八節即時待機	二四一五
二十節即時待機	七五一〇二	最大速即時待機	一三一五五
二十節十分間待機	五一〇三〇		

086T

113

(3)

燃料消費額
五八〇六 瓩

三ノ節四時間待機

二一〇三〇

1981

飛行機隊戦闘詳報
戦闘経過概要

同日	同日	同日	同日	同日	同日	同日	同日	同日	同日	同日	同日
晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴
今泉中尉 機長	今泉中尉 機長	今泉中尉 機長	今泉中尉 機長	今泉中尉 機長	今泉中尉 機長	今泉中尉 機長	今泉中尉 機長	今泉中尉 機長	今泉中尉 機長	今泉中尉 機長	今泉中尉 機長
観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測
風向四度 風速三ノ節	風向八度 風速五ノ節	風向三ノ節	風向五ノ節	風向五ノ節	風向五ノ節	風向五ノ節	風向五ノ節	風向五ノ節	風向五ノ節	風向五ノ節	風向五ノ節
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾
被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾
被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾
被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾
被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾
被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾	被弾

(自一九一〇二五
至一九一〇二六)

1981

(別圖) 飛行機隊行動圖

同日	五戦隊	内田少尉	探小川上飛曹	偵内田少尉(長)
0時	現東ニ	理	一三〇〇	一三〇〇

昭和二十六年
十月二十六日

捷一號作戰大和三號機行動圖

(航空圖第
二〇六五上向尺)

指揮官

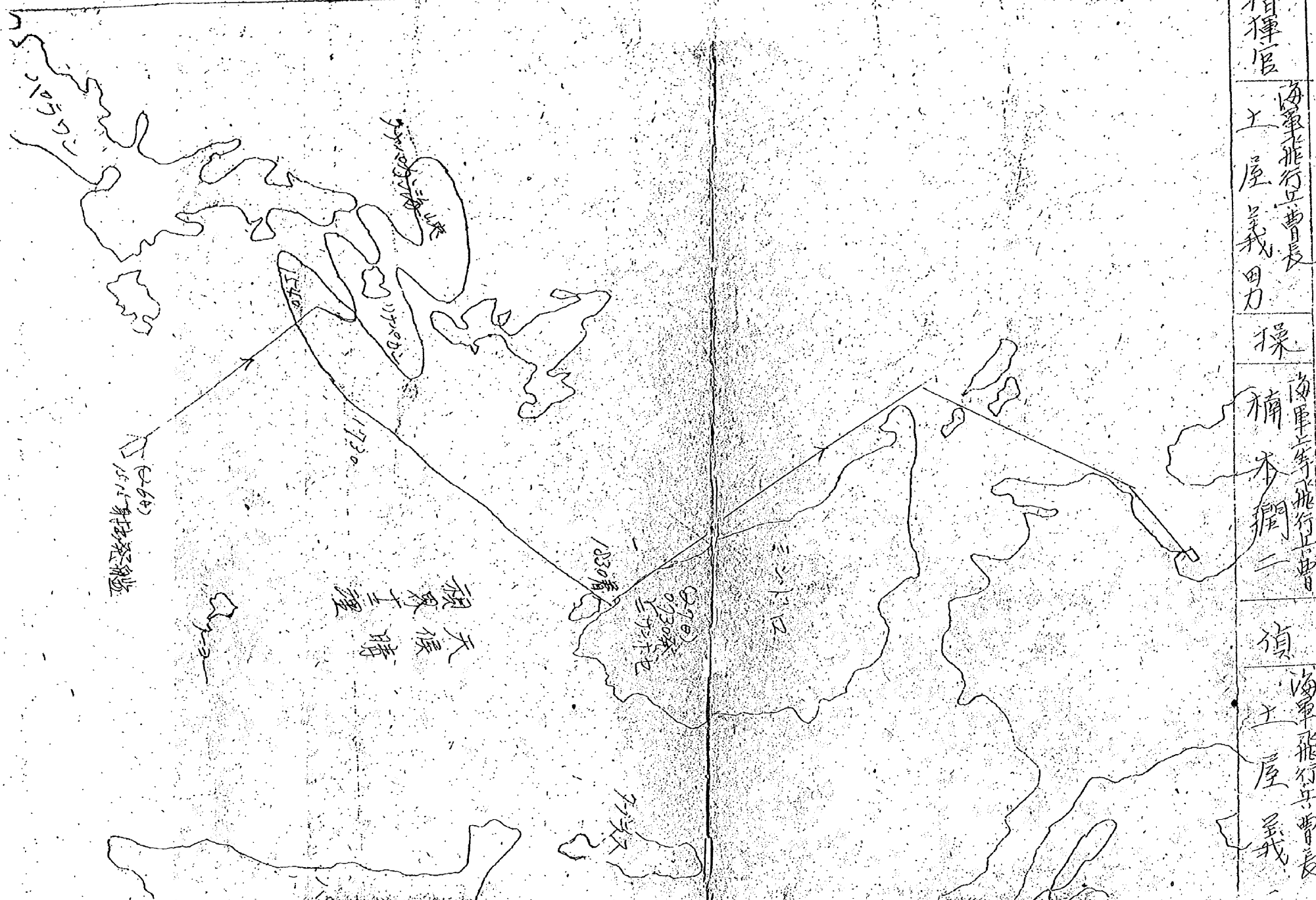
海軍飛行兵曹長
土屋 呈我 勇

操

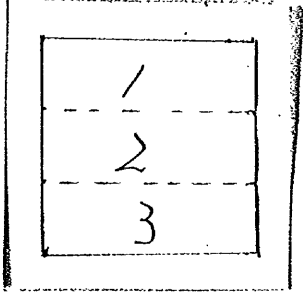
海軍上等飛行兵曹
楠 本 潤 三

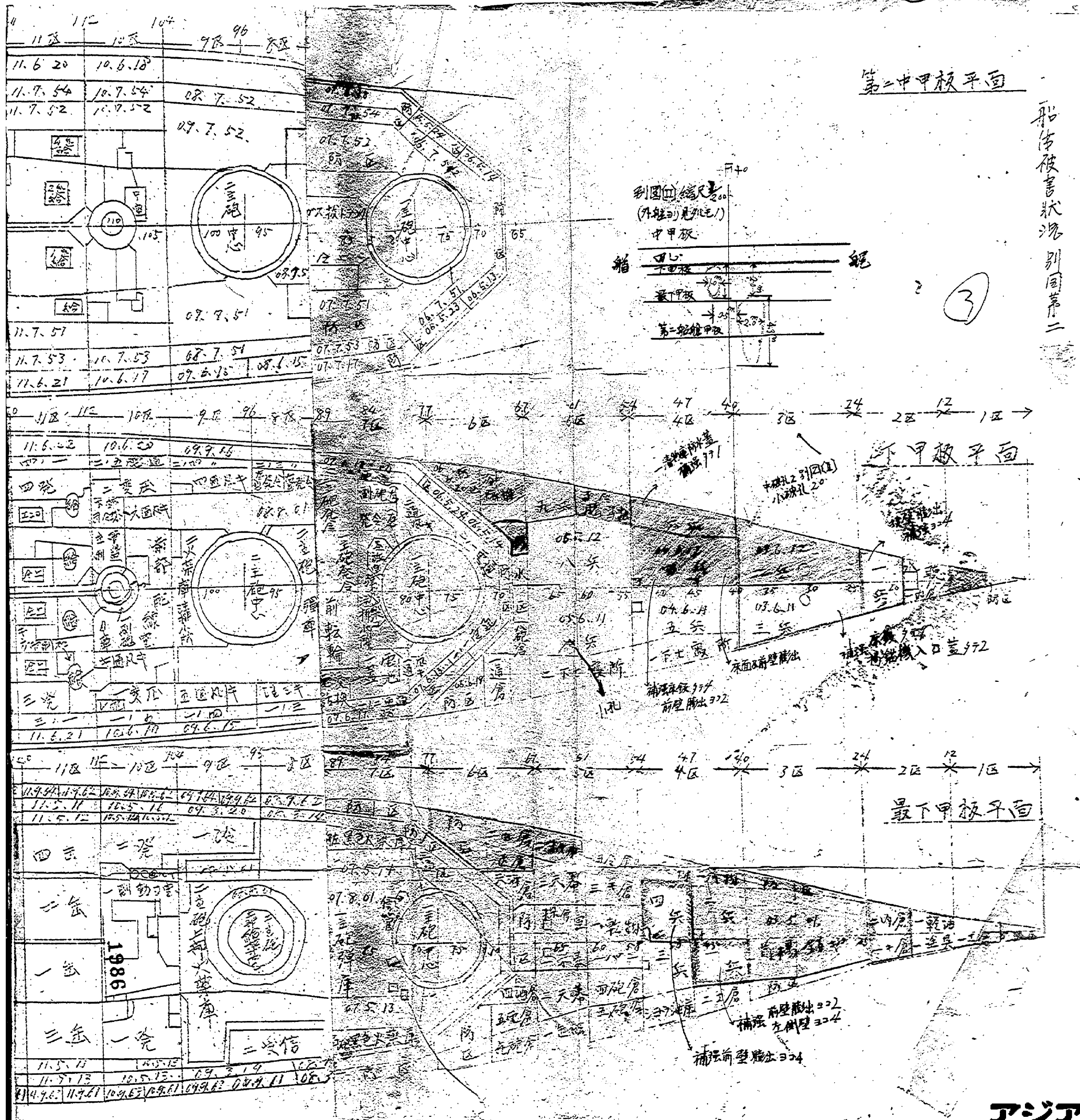
偵

海軍飛行兵曹長
土屋 呈我



分割撮影ターゲット

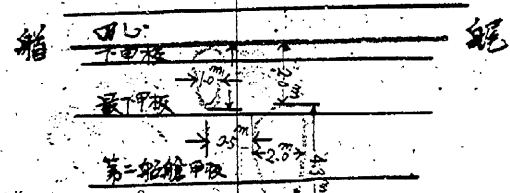
分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A3判 以上のため
上記のとおり分割撮影したことを 証明する 2 年 12 月 20 日 主務者又は 撮影立会者 尾形文夫 (印)	



第二甲板平面

船体被害状況別図第二

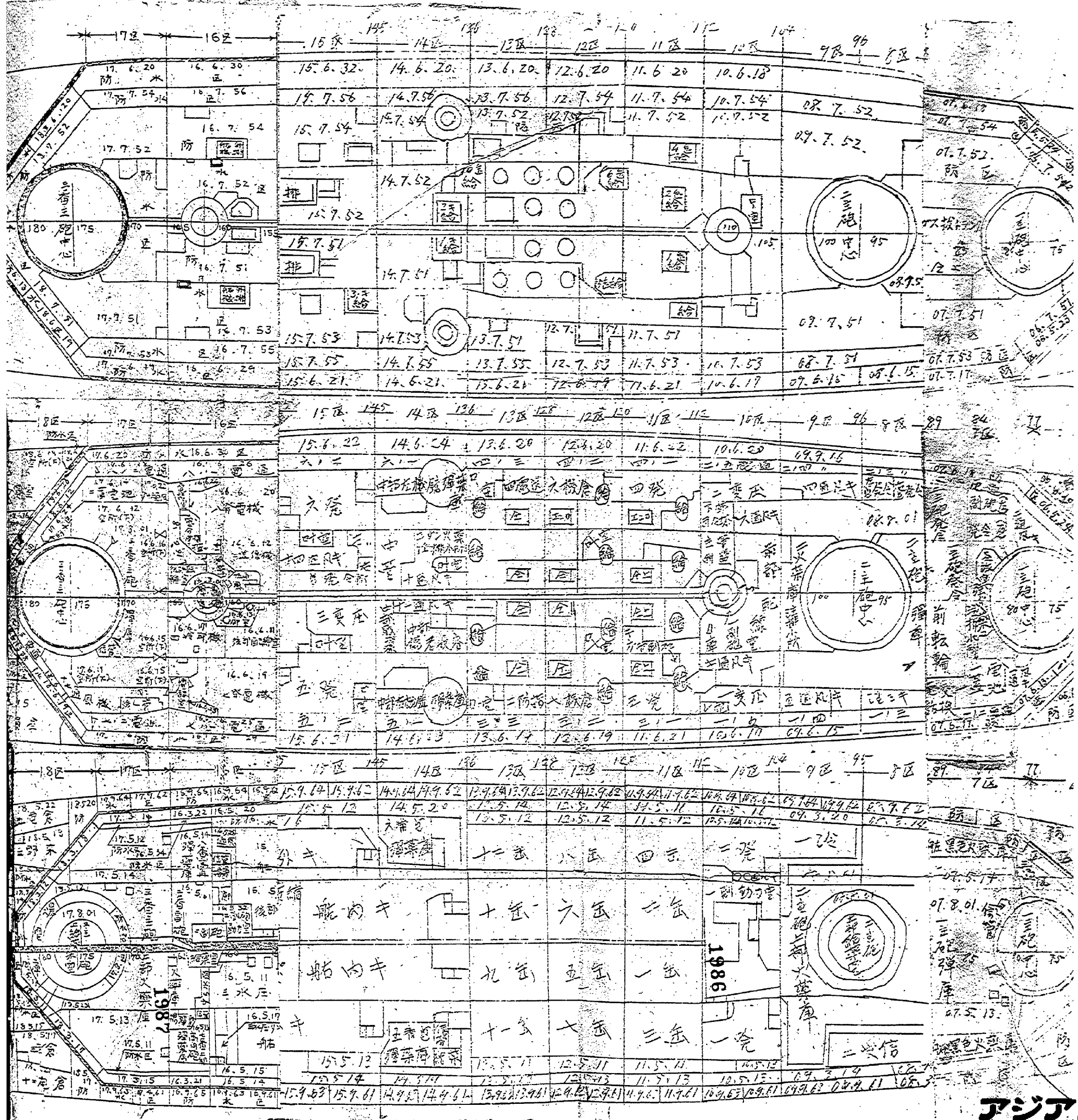
別圖(四) 艦尺書
(外艦) 見別圖(一)



3

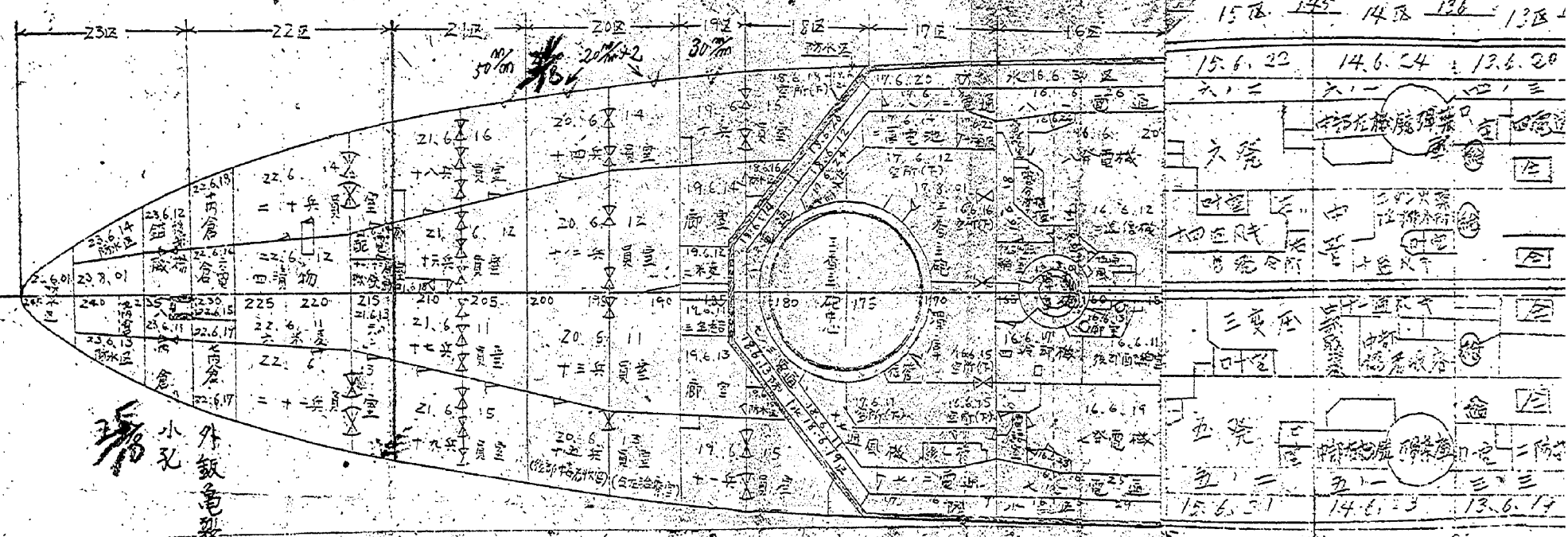
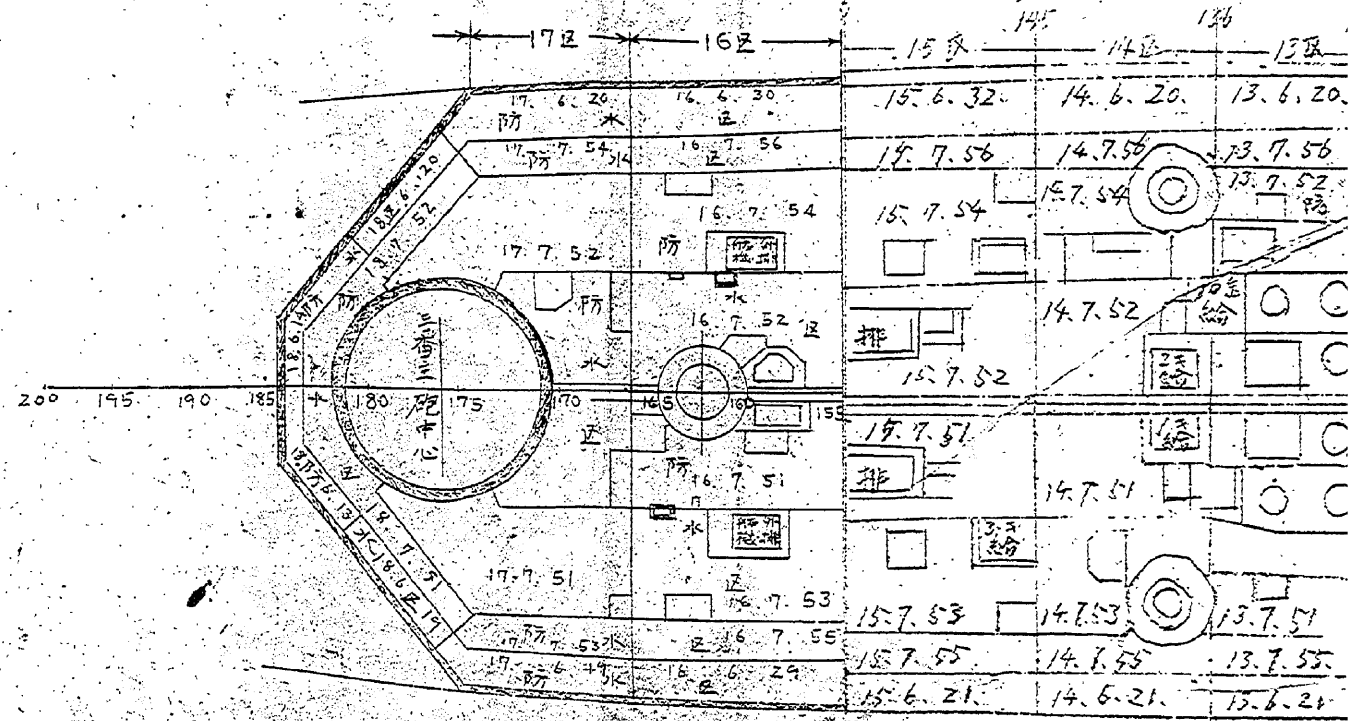
中甲板平面

最下甲板平面

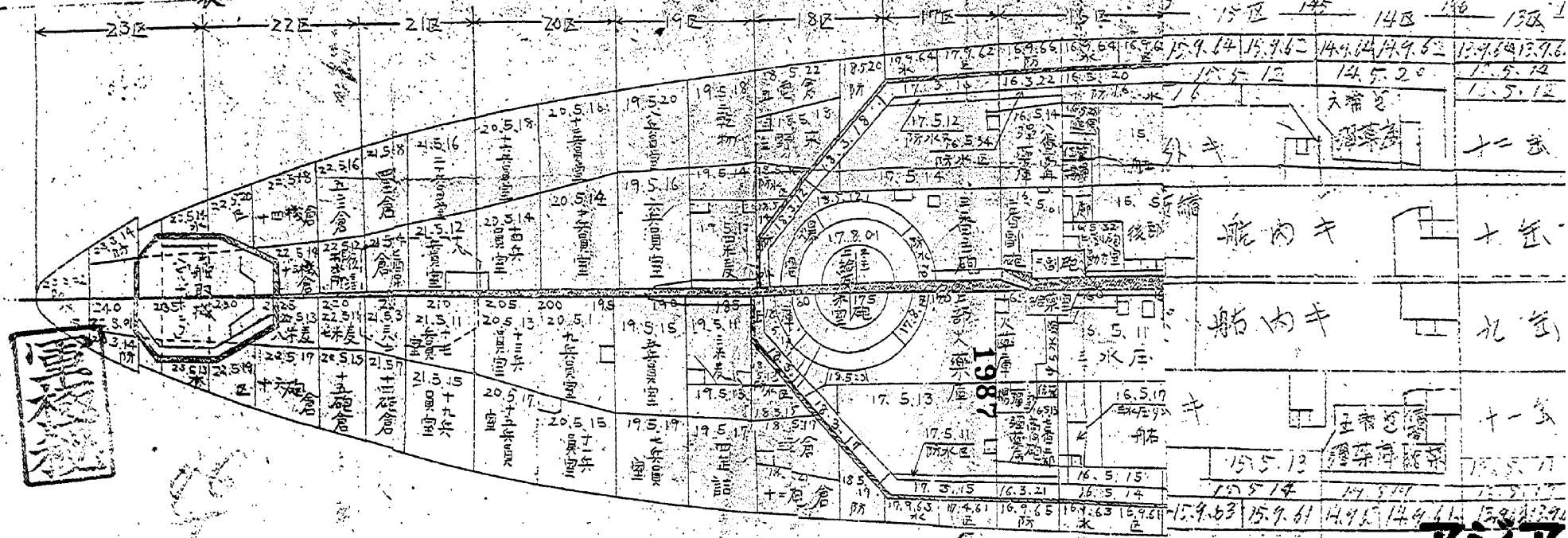




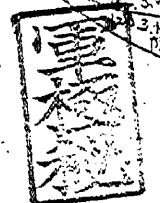
Handwritten notes and scribbles in the upper left quadrant.



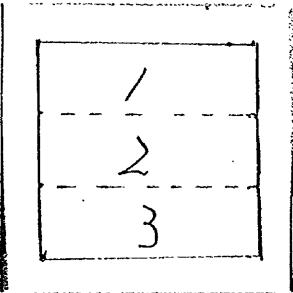
外鏡筒裂
小孔

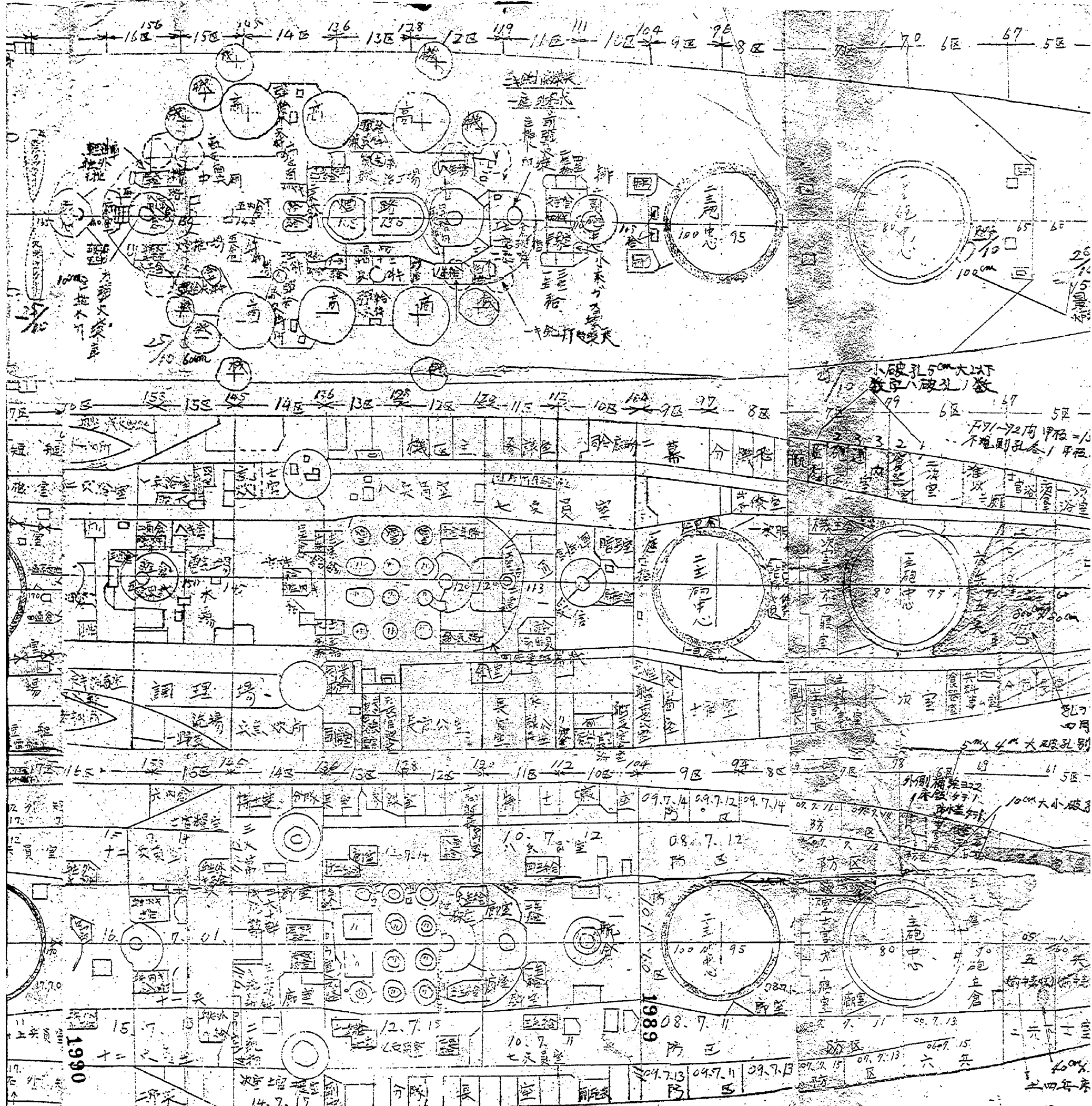


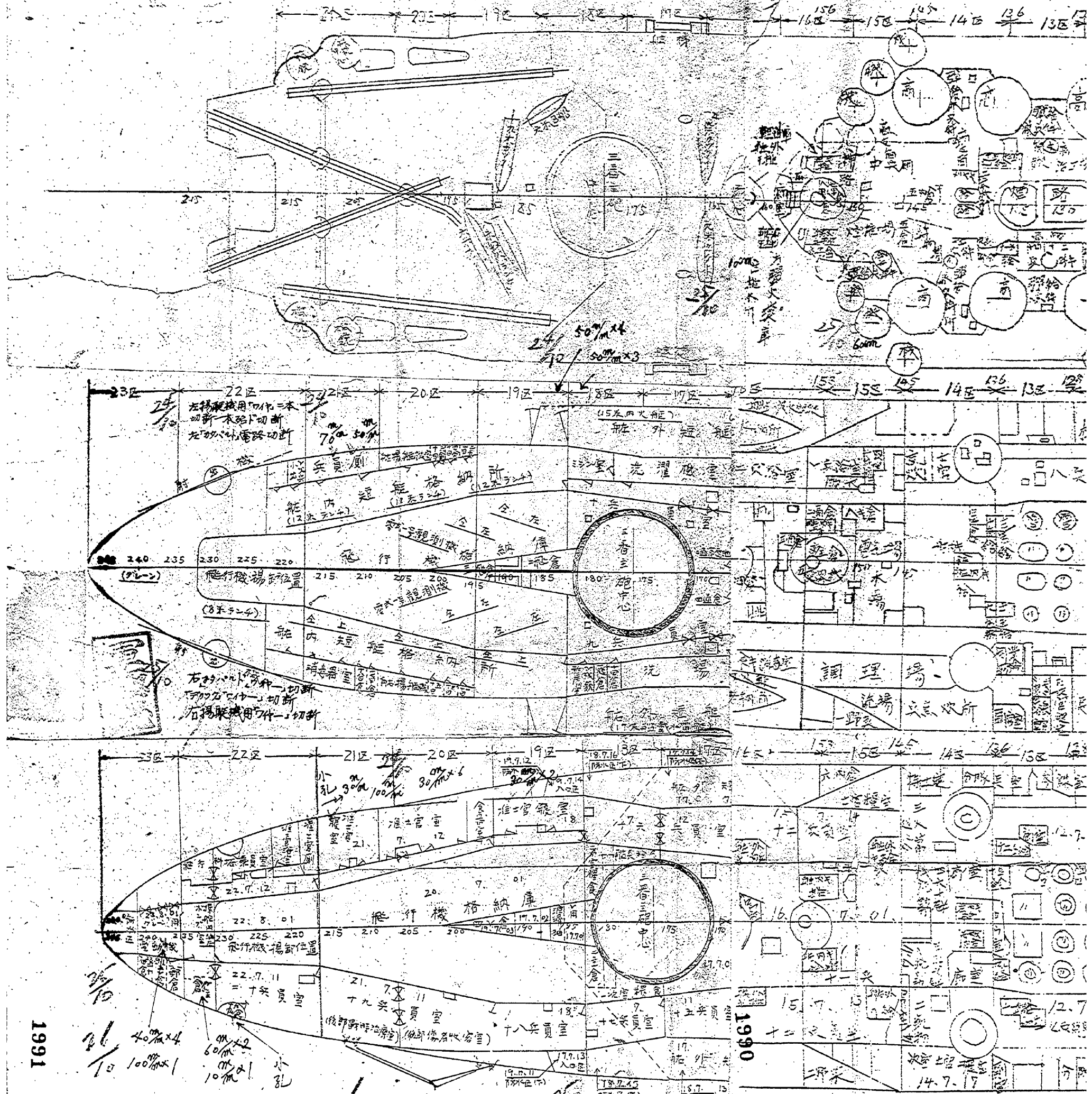
1988



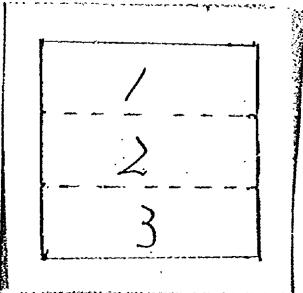
分割撮影ターゲット

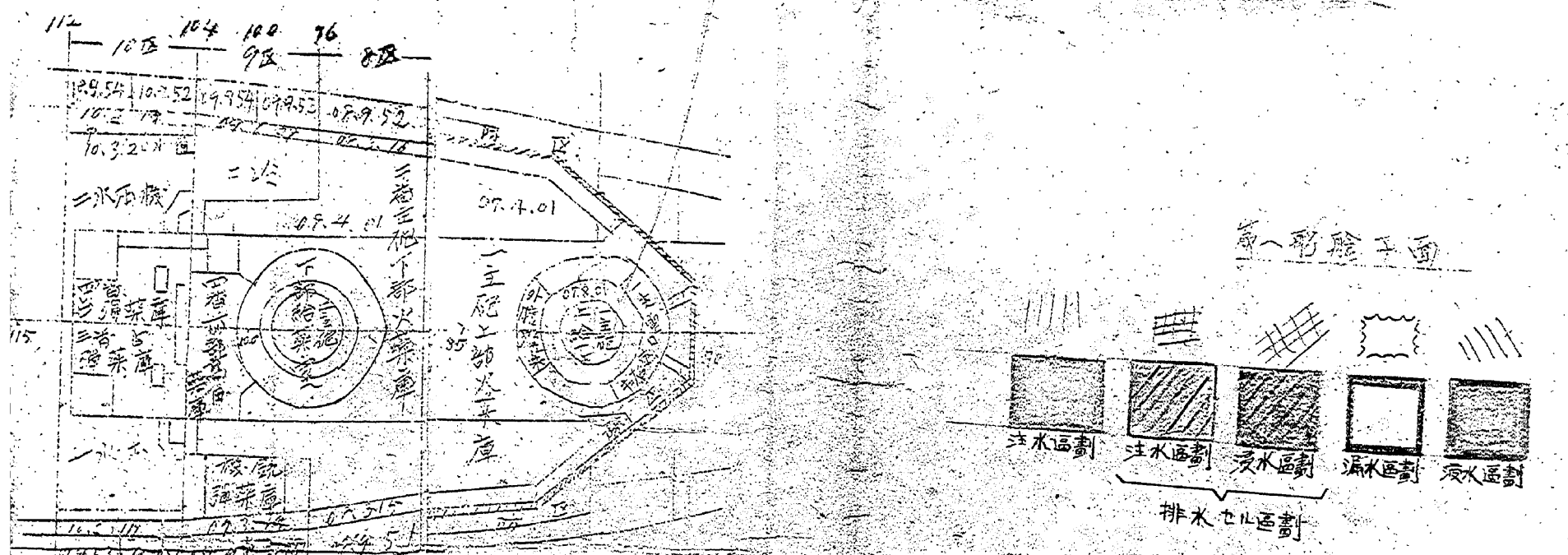
分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A3判 以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>2 年 10 月 20 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 尾形 文夫 (印)</p>	



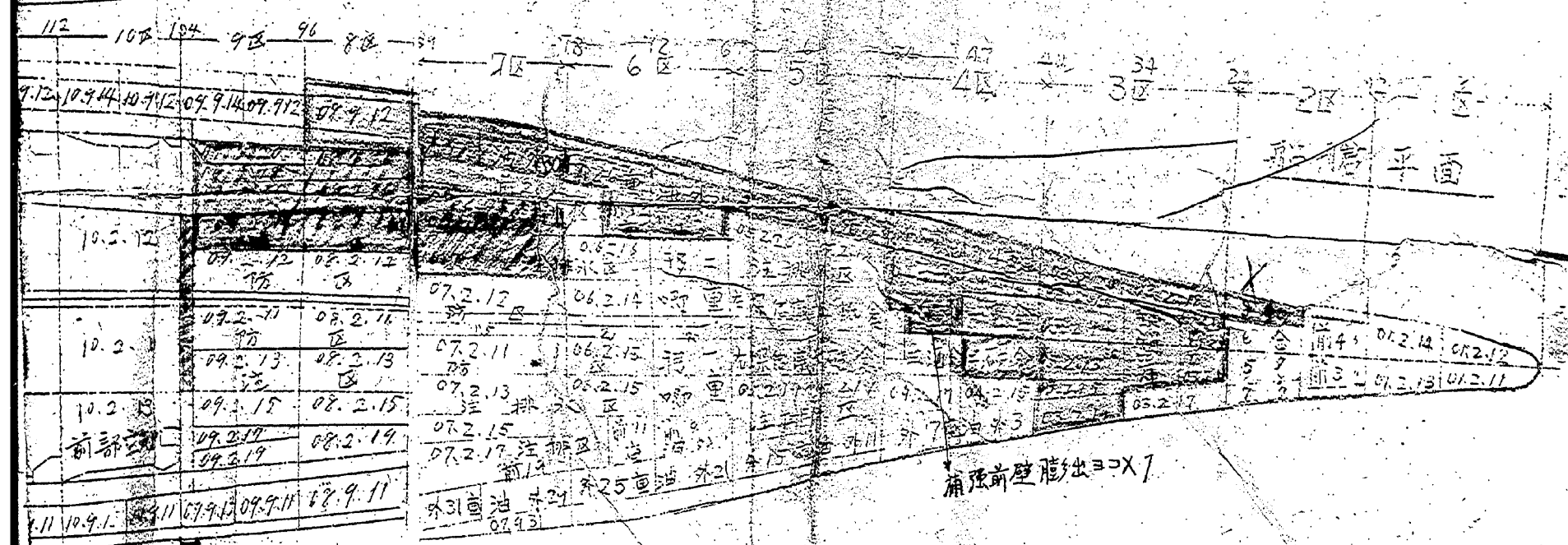
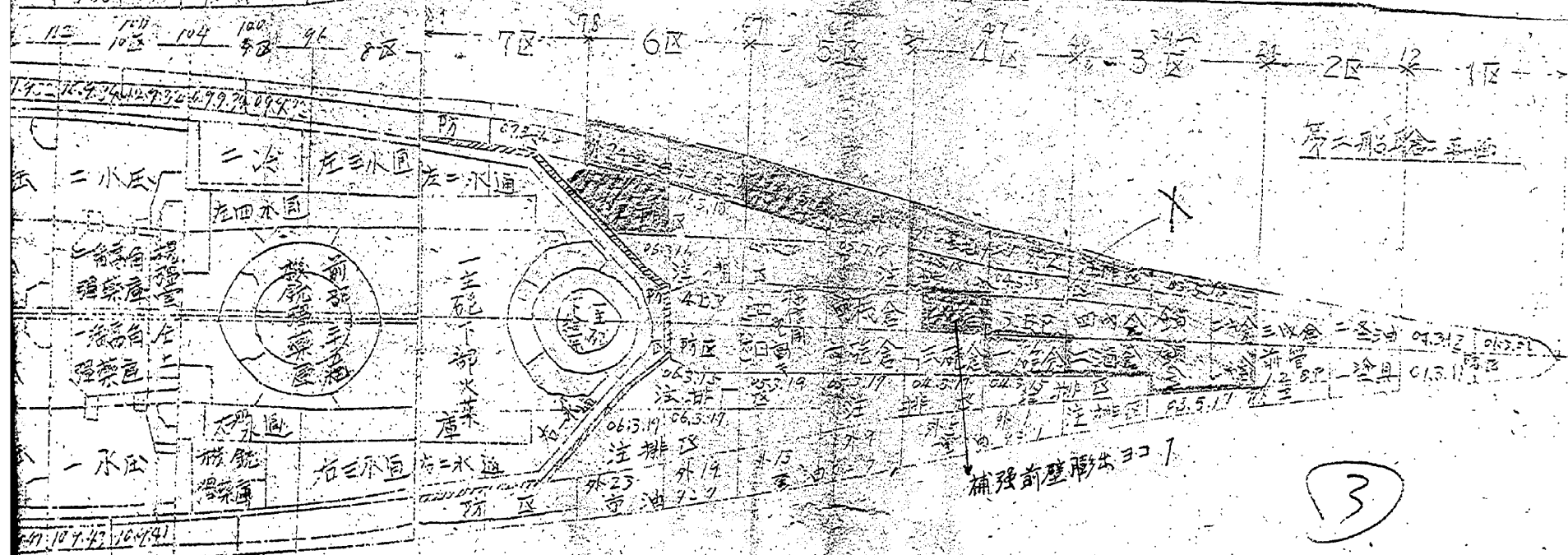


分割撮影ターゲット

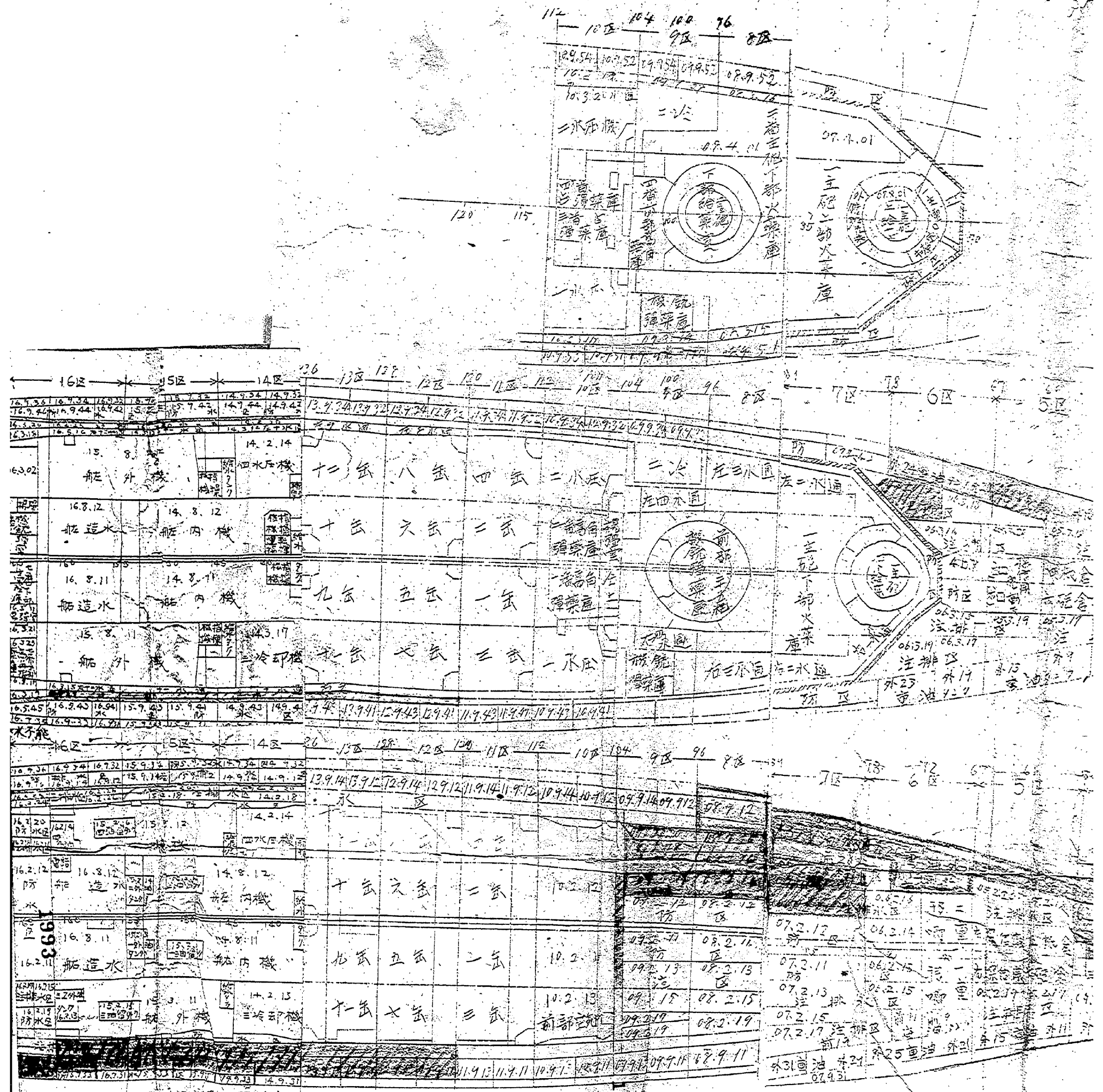
分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A3判 以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>2 年 12 月 20 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 尾形 文夫 (印)</p>	

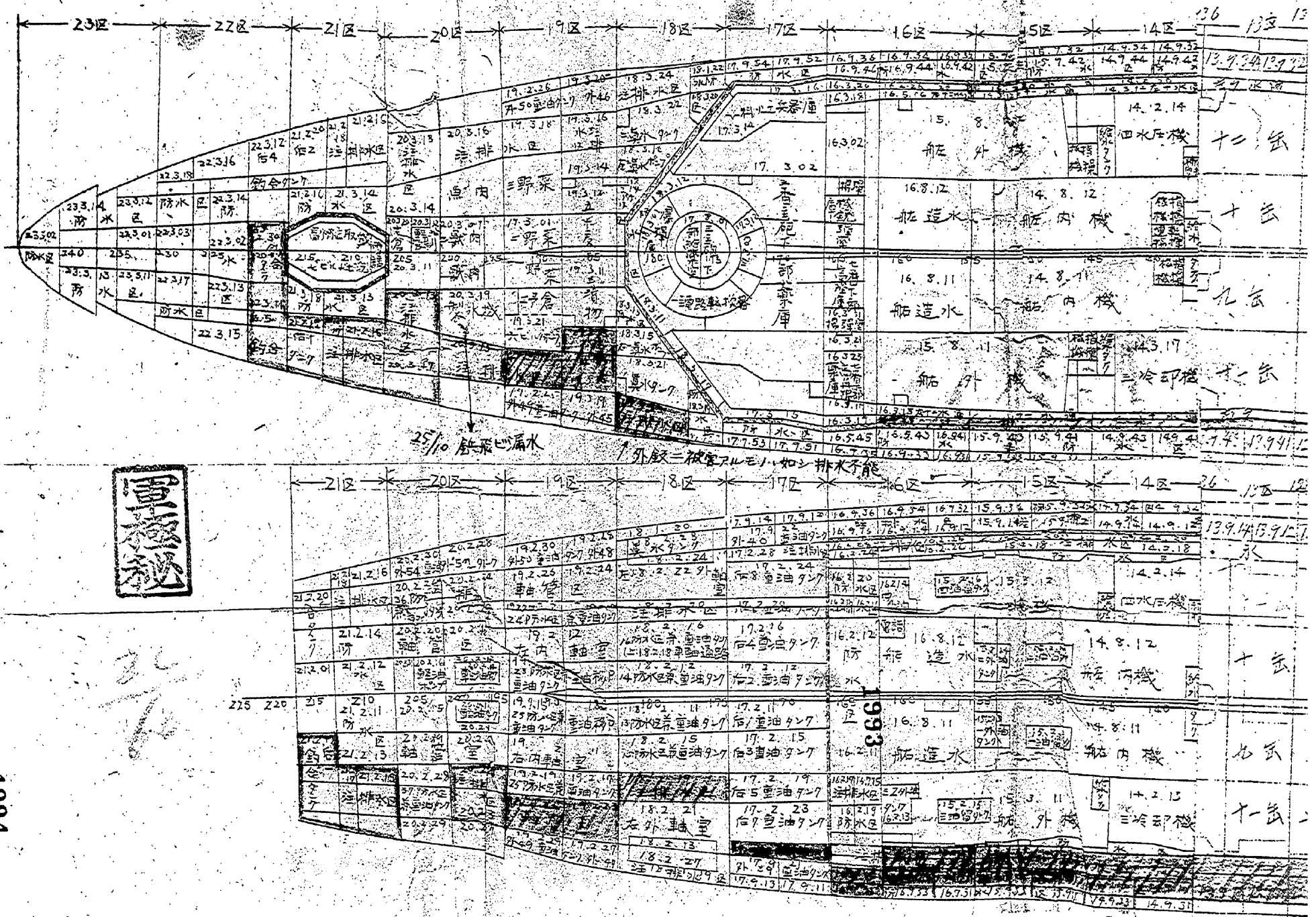


船体被害状況別同第三



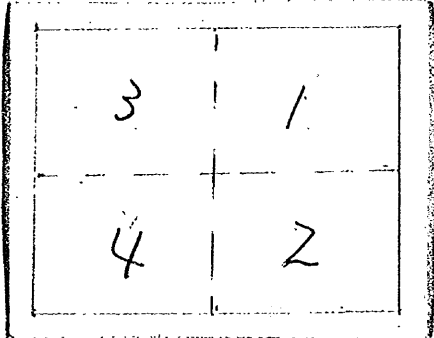
1992



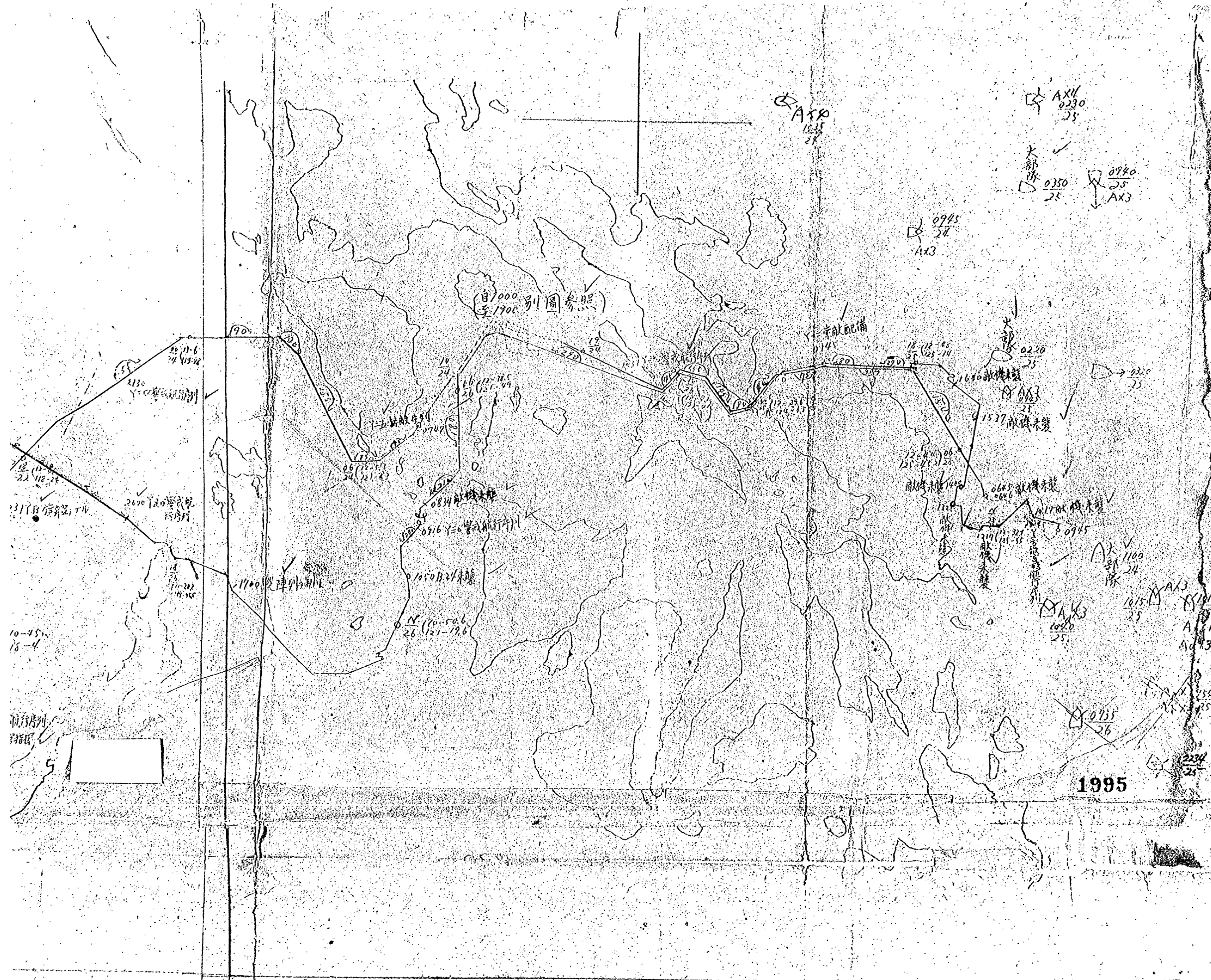


1994

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判 以上のため
上記のとおり分割撮影したことを 証明する 2年12月20日 主務者又は 撮影立会者 尾形文夫 (印)	

(三) 比島沖海軍艦大和行動圖海圖第一六七號(同尺度)

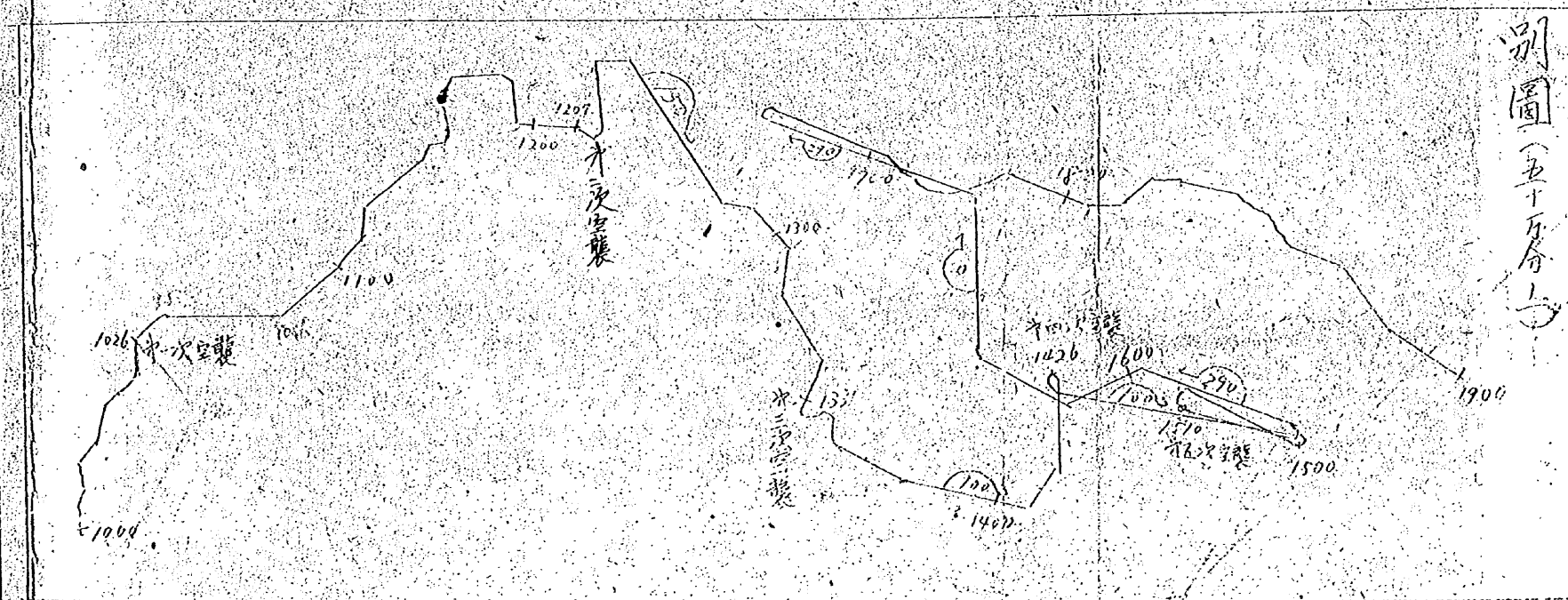


1995

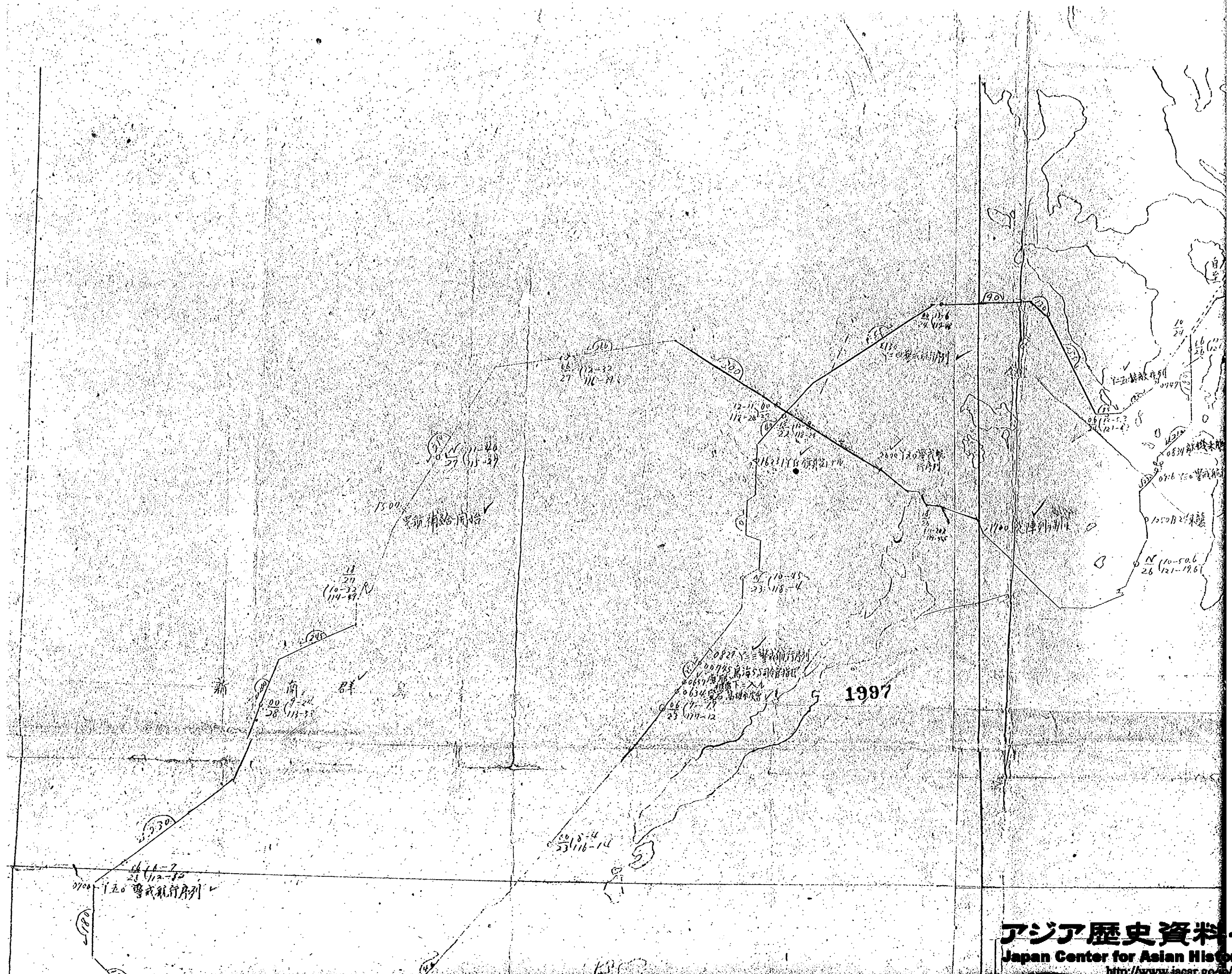
海圖第六十七節 同尺度

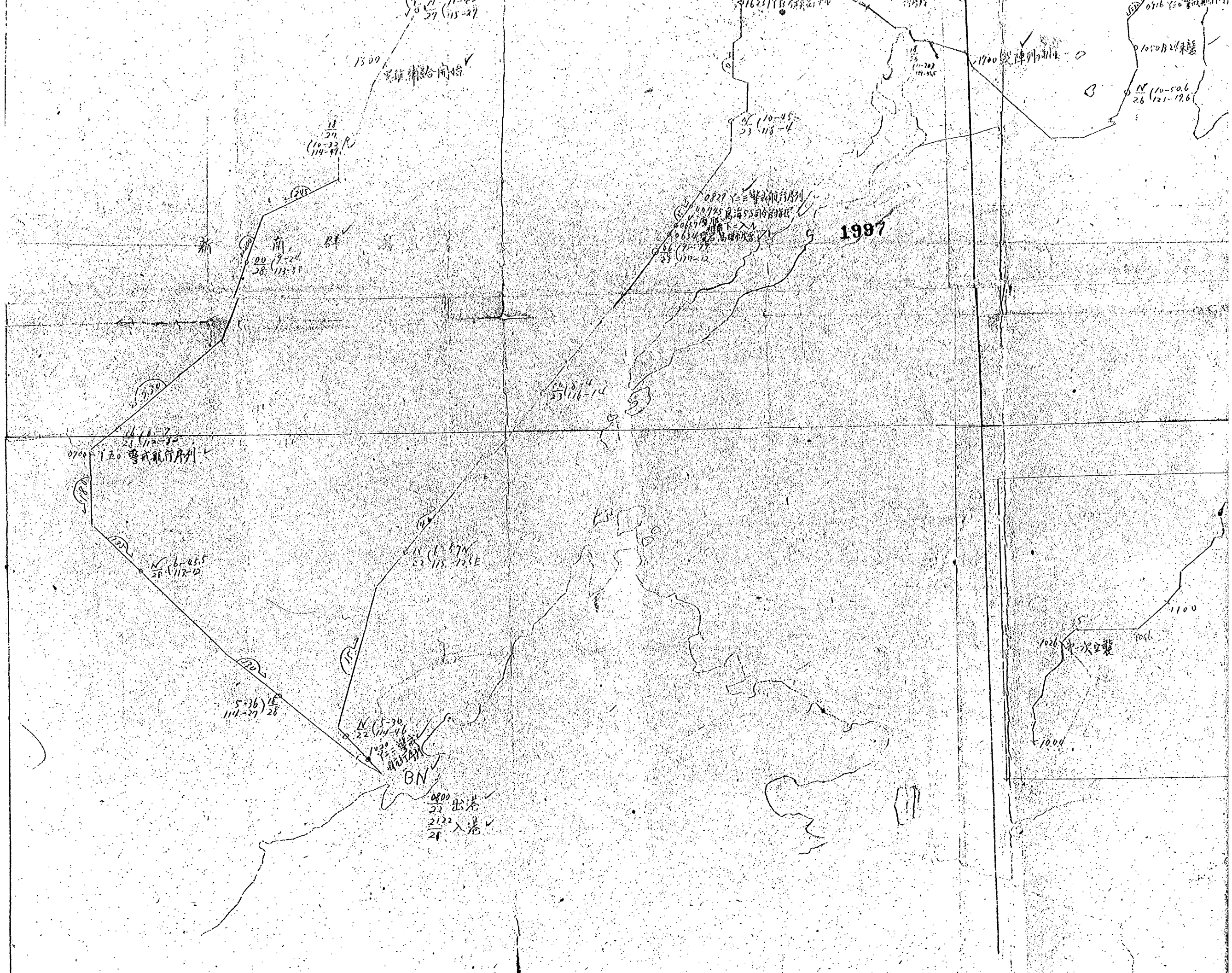
1995

1997



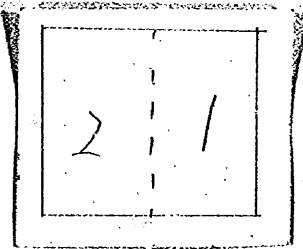
0939 P2A



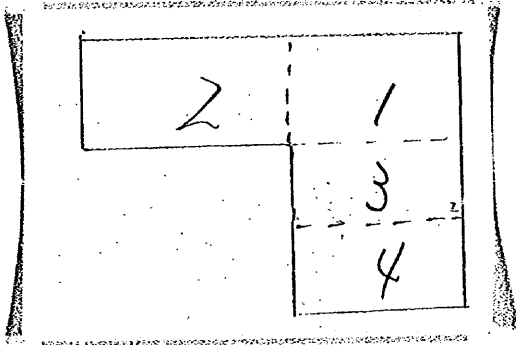


1998

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A3判 以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>2 年 12 月 20 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 尾形 文夫 (印)</p>	

分割撮影ターゲット

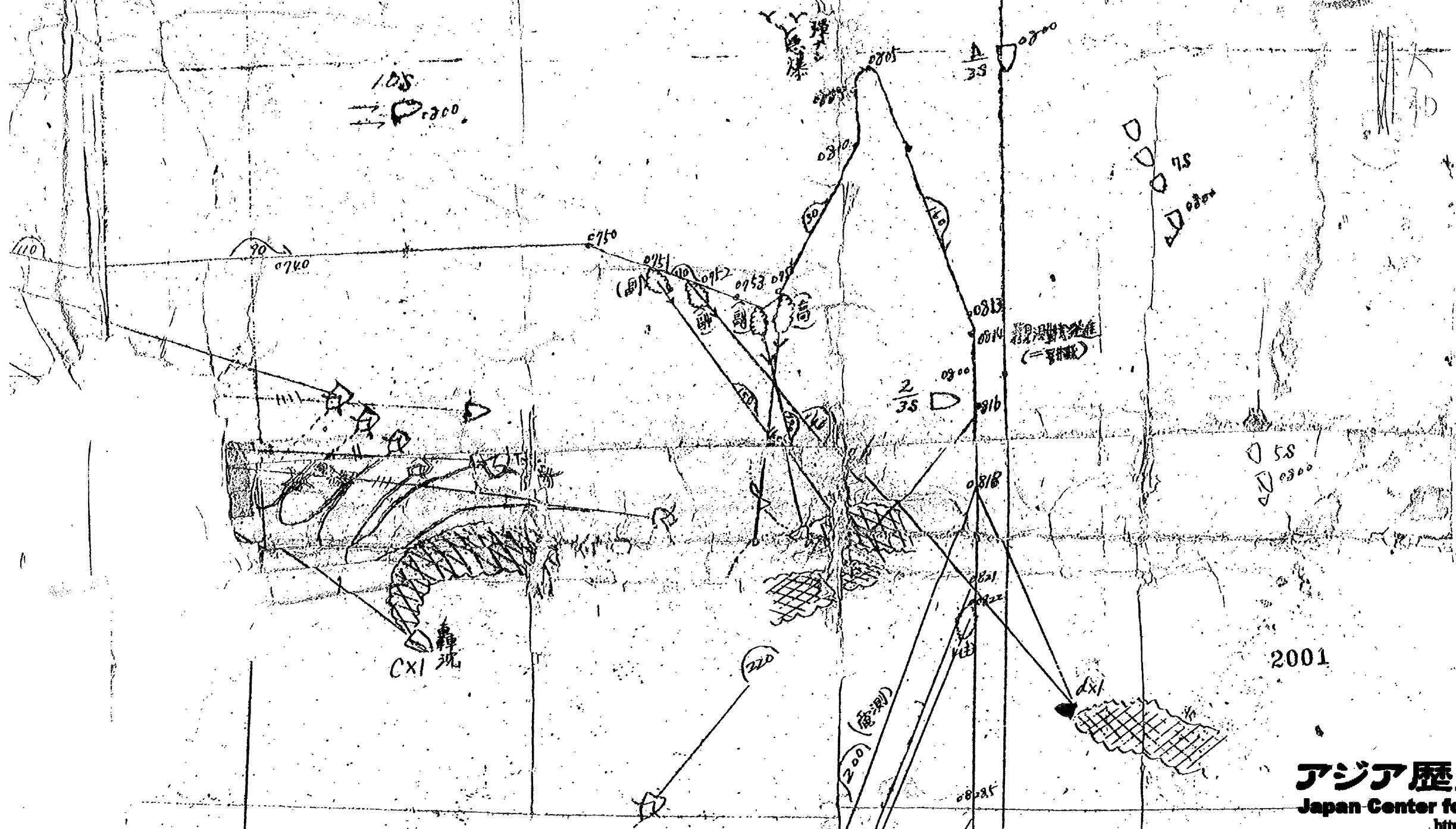
分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3判 以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを証明する</p> <p>2 年 12 月 20 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 尾形 文夫 (印)</p>	

比島沖海戦合戦圖

(十分之一)

126°10'

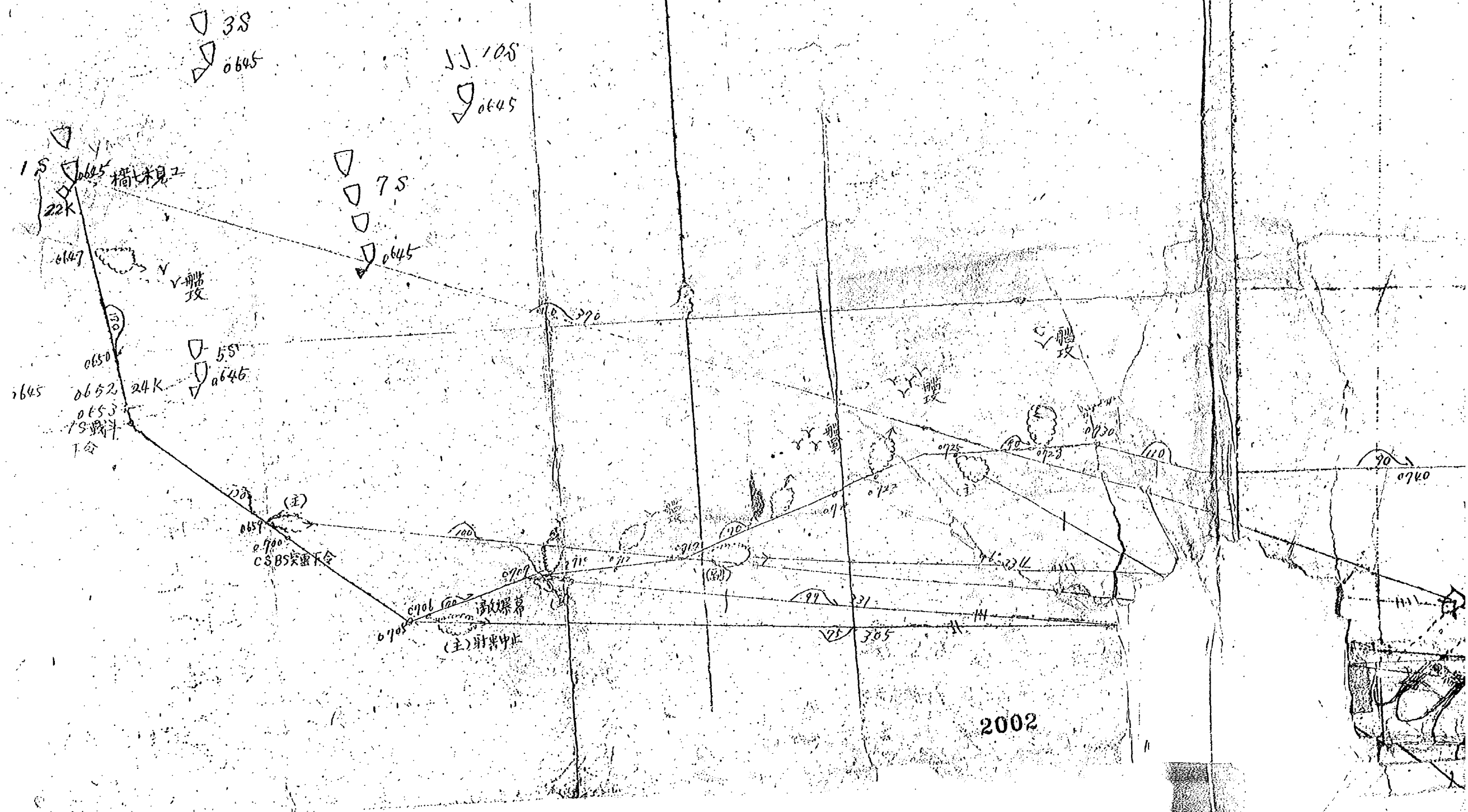
126°20'



2001

126°10'

126°0'



2002

